

国境を越える身体とツーリズム

日時

2011年
1月22日(土)

場所 明治学院大学白金キャンパス2201教室 (2号館1F)

時間 13時00分～16時30分

参加費 無料 ※資料代のカンパ(500円程度)をお願いします

栗屋 剛

(岡山大学・医歯薬学総合研究科・生命倫理学分野／生命倫理・医事法)

(あわや つよし)

「アジアへの移植ツーリズム —その現実、法、倫理—」

1950年生まれ。岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授。専門は生命倫理学。現在、日本生命倫理学会常務理事、1990年代以降、EBB (Evidence Based Bioethics)を標榜し、インド、フィリピンにおける臓器売買、中国における死刑囚からの臓器移植、アメリカにおける人体商品化などについての実態調査を行う。『人体部品ビジネス—「臓器」商品化時代の現実』(講談社選書メチエ、1999年)など著書多数。最近では、2007年1月、アメリカの『生命倫理百科事典(Encyclopedia of Bioethics)』全5巻3000頁の翻訳[約300人の分担翻訳]を編集総代表として出版。

柘植あづみ

(明治学院大学・社会学部社会学科／医療人類学)

(つげ あづみ)

「精子提供と卵子提供の比較検討」

1960年生まれ。明治学院大学社会学部社会学科教授。専門は医療人類学。文化人類学的手法を用いて、医療や生命科学技術の応用における患者・利用者と医師・研究者の相互作用、および、技術の進展と文化・社会の相関関係についての研究を行なっている。

主な著書・論文として、『文化としての生殖技術』(松籟社、1999年)、『妊娠を考える—くからだ>をめぐるポリティクス』(NTT出版、2010年)、共著『妊娠—あなたの妊娠と出産の経験をおしえてください』(洛北出版、2009年)など。

出口 顯

(島根大学・法文学部／文化人類学)

(でぐち あきら)

「養父母になった国際養子たち：スカンジナビアの国際養子縁組におけるアイデンティティと親子関係」

1957年生まれ。島根大学法文学部社会文化学科教授。専攻は文化人類学。レヴィ＝ストロースやエヴァンズ＝プリチャード、フォーコーらの思想の研究、生殖医療技術や臓器移植などの医療技術がアイデンティティにもたらす影響についての研究を主に行っている。

主な著書に『誕生のジェネオロジー』(世界思想社、1999年)、『臓器は「商品」か—移植される心』(講談社現代新書、2001年)、『レヴィ＝ストロース斜め読み』(青弓社、2003年)などがある。『臓器は「商品」か』は『マウムル イシック ハンダ(心を移植する)』(シムサン社、2006年)として韓国で翻訳された。

主催 リプロダクション研究会

共催 生殖テクノロジーとヘルスケアを考える研究会／科学研究費補助金(新学術領域研究)「女性に親和的なテクノロジーの探求と新しいヘルスケア・システムの創造」(代表 日比野由利)
代理出産を問直す会